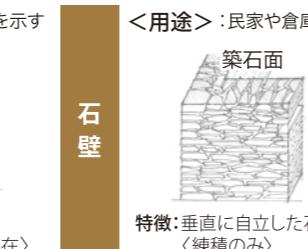
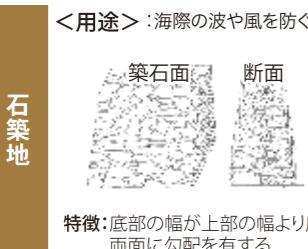
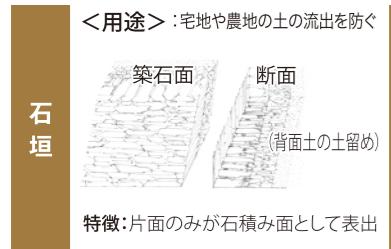


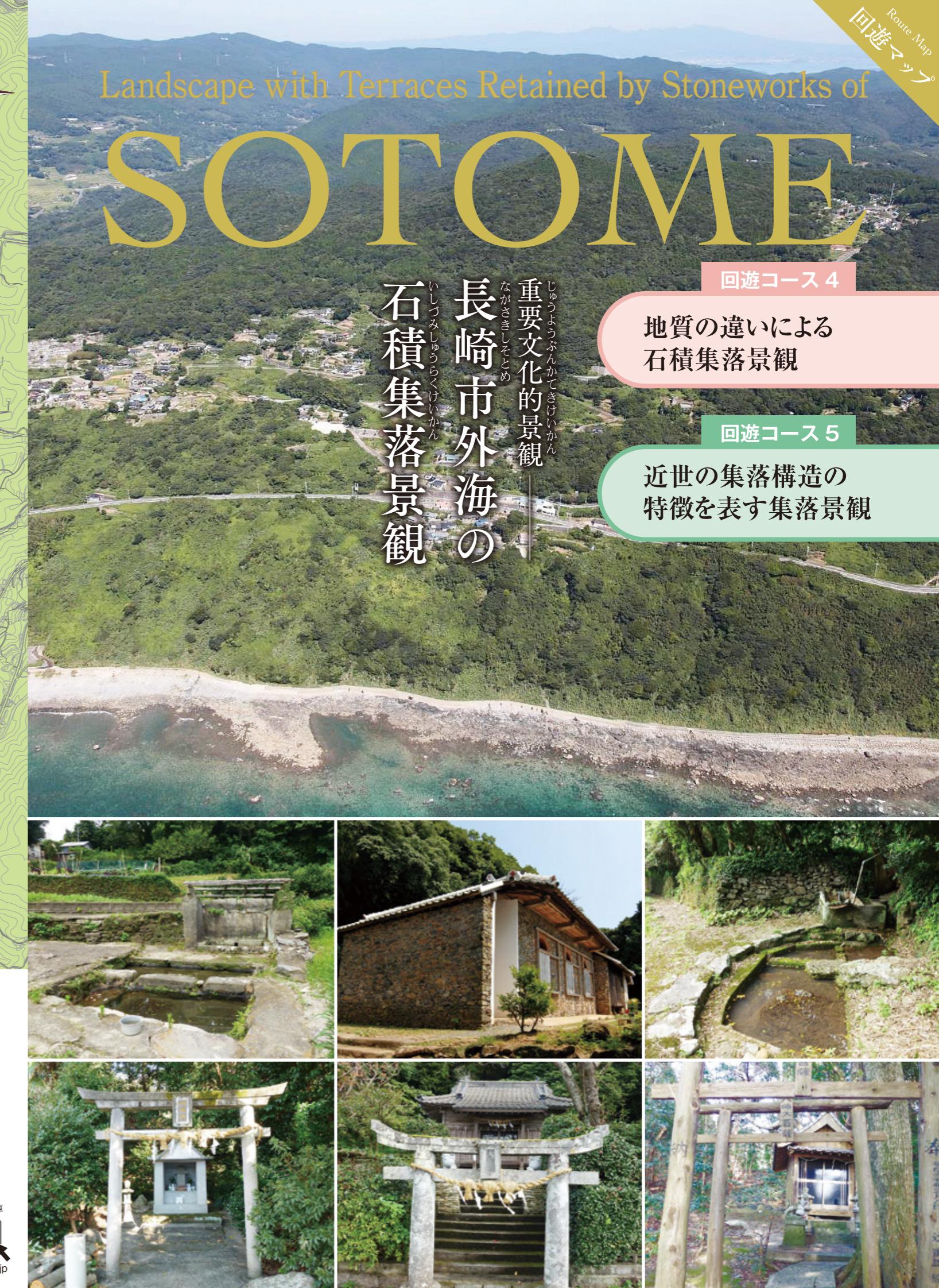
**石積みの種類**

【アクセス】

■バス(約60分) 長崎駅前バス停から【長崎バス「桜の里ターミナル(板の浦連絡便)行き】乗車 ~ 桜の里ターミナルバス停から【さいかい交通「板の浦」行き】に乗換え~「出津文化村」バス停下車

■車・バイク(約50分) 長崎駅から国道206号線、202号線

長崎市外海の石積集落景観



**長崎市外海の石積集落景観 回遊コース4
地質の違いによる石積集落景観**

モデルコース4

(歩行／60分約1.4km)
消費カロリー 約194Kcal
スタート＆ゴール
標高 250m 200m 150m 100m 50m

**長崎市外海の石積集落景観 回遊コース5
近世の集落構造の特徴を表す集落景観**

モデルコース5

(歩行／60分約1.6km)
消費カロリー 約200Kcal
スタート＆ゴール
標高 200m 150m 100m 50m

※ 大野集落駐車場から歩いて移動をお願いします

大野集落駐車場

スタート＆ゴール

202

特徴的な景観

視点場

トイレ

駐車場

誘導サイン

バス停

50m

A view

B view

天気が良ければ五島列島が見える。

1 草木田の水場(カワ)

2 上越首の水場(カワ)

3 辻集落の石階段

4 辻神社

5 大野教会堂と境内石垣

草木田の水場(カワ)

くさきだみずば
げんぶがん
大野岳に広がる玄武岩の亀裂から流れ出る地下水は斜面の数か所で湧水として現れ、生活水として湧水をためる場所としていくつかの集落ごとに石積みで築かれた水場(地元では「カワ」と呼ぶ)が作られた。上下水道が普及する昭和30年頃まで利用されていた。草木田の水場は段畠内にあり、現在も農作業などに利用され、地元での定期的な清掃活動によって維持されている。

上越首の水場(カワ)

かみこえくび
大野集落で最も古くからある水場で、共同井戸と呼ばれていた。明治期の土地利用図でも水路の起点であることが分かっており、キリスト教の禁教令が解かれた明治初期の頃はキリスト教に復帰した者は利用が禁じられるなど集落の歴史を表すものである。

辻集落の石階段

明治期からみられる上越首から辻神社がある辻集落に通じる里道である。里道は大野岳に広がる玄武岩を用いた石階段で、階段沿いにはネリベイ建物の跡の分布が見られる。現在は一部コンクリート等で固められているが、今も住民の生活道として使用されている。

辻神社

辻神社は江戸時代に書かれた大村藩の記録書『大村郷村記』に記録があり、近世から存在する神社である。元々自然信仰に基づく山の神を祀った神社であるが、潜伏キリスト教徒の祭神を自分たちの信仰対象としても重ねた。

大野教会堂と境内石垣

大野教会堂は、ド・口神父が敷地を造成し1893(明治26)年に建設した出津教会堂の巡回教会である。大野岳に広がる当地でとれる玄武岩を漆喰モルタルで固めた独特な壁(地元では神父に因んで「ド・口壁」とも呼ぶ)が特徴で、玄武岩の使用が最も顕著に見られる代表的な建築物である。また、境内石垣も明治期に築かれた玄武岩を代表する石垣である。

庄屋敷跡の石垣と水場(カワ)

近世の大野集落が属する神浦村には庄屋が3か所あり、大野集落にも庄屋敷があった。大野の庄屋は大野神社の宮司を1950年代頃まで5代にわたって務めていた。現在、屋敷地の当時の石垣遺構が残っており、近世の歴史文化や集落構造を表すものである。屋敷跡の隣接地には水場も存在する。

門神社

門神社は門部落(十数戸)の氏神であり、もともと様々な神が祀られていたが、その中に「島原・天草一揆」の際にこの地に逃げてきたキリスト教徒の島原浪人を重ねて祀ったと伝わる。大野集落では各家に神様として石を祀ったり、祠を建てている所が多く、現在は門神社に集めて合祀している。

見学される場合は、私有地には立ち入らないなど、マナーを守り、所有者や近隣に住んでいる人へ迷惑をかけないようお願いします。